

# 資料編

## 【資料 1】 「般若心経」 全文と訳 【参考】

### 般若心経（三蔵法師玄奘訳）

訳；花山勝友氏

観自在菩薩（かんじざいぼさつ）	（観音菩薩が、）
行深般若波羅蜜多時（ぎょうじんはんにはらみったじ）	（深遠な知恵を完成するための実践をされている時、）
照見五蘊皆空（しょうけんごうんかいく）	（人間の心身を構成している五つの要素がいずれも本質的なものではないと見極めて、）
度一切苦厄（どいつさいくやく）	（すべての苦しみを取り除かれたのである。）
舍利子（しゃりし）	（そして舍利子に向かい、次のように述べた。舍利子よ、）
色不異空（しきふいこう）	（形あるものは実体がないことと同じことであり、）
空不異色（くうふいしき）	（実体がないからこそ一時的な形あるものとして存在するものである。）
色即是空（しきそくぜくう）	（したがって、形あるものはそのまま実体なきものであり、）
空即是色（くうそくぜしき）	（実体がないことがそのまま形あるものとなっているのだ。）
受想行識（じゆそうぎょうしき）	（残りの、心の四つの働きの場合も、）
亦復如是（やくふによぜ）	（まったく同じことなのである。）
舍利子（しゃりし）	（舍利子よ、）
是諸法空想（ぜしよほうくうそう）	（この世の中のあらゆる存在や現象には、実体がない、という性質があるから、）
不生不滅（ふしょうふめつ）	（もともと、生じたということもなく、滅したということもなく、）
不垢不淨（ふくふじょう）	（よごれたものでもなく、浄らかなものでもなく、）
不増不減（ふぞうふげん）	（増えることもなく、減ることもないのである。）
是故空中無色（ぜこくうちゅうむしき）	（したがって、実体がないということの中には、形あるものはなく、）
無受想行識（むじゆそうぎょうしき）	（感覚も念想も意志も知識もないし、）
無限耳鼻舌身意（むげんにびぜつしんに）	（眼・耳・鼻・舌・身体・心といった感覚器官もないし、）
無色声香味触法（むしきしょうこうみそくほう）	（形・音・香・味・触覚・心の対象、といったそれぞれの器官に対する対象もないし、）
無限界乃至無意識界（むげんかいないういしきかい）	（それらを受けとめる、眼識から意識までのあらゆる分野もないのである。）
無無明（むむみょう）	（さらに、悟りに対する無知もないし、）
亦無無明尽（やくむむみょうじん）	（無知がなくなることもない、）
乃至無老死（ないういむろうし）	（ということからはじまって、ついには老と死もなく）
亦無老死尽（やくむろうしじん）	（老と死がなくなることもないことになる。）
無苦集滅道（むくしゅうめつどう）	（苦しみも、その原因も、それをなくすことも、そしてその方法もない。）
無知亦無得（むちやくむとく）	（知ることもなければ、得ることもない。）
以無所得故（いむしよとくこ）	（かくて、得ることもないのでから、）
菩提薩垂（ぼだいさつた）	（悟りを求めている者は、）
依般若波羅蜜多（えはんにやはらみった）	（知恵の完成に住する。）
故心無罣礙（こしんむけいげ）	（かくて心には何のさまたげもなく、）
無罣礙故無有恐怖（むけいげこむうくふ）	（さまたげがないから恐れがなく、）
遠離一切転倒夢想（おんりいつさいてんどうむそう）	（あらゆる誤った考え方から遠く離れているので、）
究竟涅槃（くきょうねはん）	（永遠にしずかな境地に安住しているのである。）
三世諸仏（さんぜしよぶつ）	（過去・現在・未来にわたる“正しく目覚めたものたち”は）
依般若波羅蜜多故（えはんにやはらみつたこ）	（知恵を完成することによっているので、）

得阿耨多羅三藐三菩提 (とくあのかたらさんみやくさんぼだい)	(この上なき悟りを得るのである。)
故知 (こち)	(したがって次のように知るがよい。)
般若波羅蜜多 (はんにはやはらみつた)	(知恵の完成こそが)
是大神呪 (ぜだいじんしゅ)	(偉大な真言であり、)
是大明呪 (ぜだいみょうしゅ)	(悟りのための真言であり、)
は無上呪 (ぜむじょうしゅ)	(この上なき真言であり、)
は無等等呪 (ぜむとうどうしゅ)	(比較するものがない真言なのである。)
能除一切苦 (のうじょいっさいく)	(これこそが、あらゆる苦しみを除き、)
真実不虛 (しんじつふこ)	(真実そのものであって虚妄ではないのである、と。)
故説般若波羅蜜多呪 (こせつはんにはやはらみつたしゅ)	(そこで最後に、知恵の完成の真言を述べよう。)
即説呪曰 (そくせつしゅわつ)	(すなわち次のような真言である。)
羯帝羯帝波羅羯帝 (ぎやていぎやていはらぎやてい)	(行き過ぎて、彼岸に行き、)
波羅僧羯帝 (はらそうぎやてい)	(完全に彼岸に到達した者こそ、)
菩提 (ぼうじ)	(悟りそのものである。)
僧莎訶 (そわか)	(めでたし。)
般若心経 (はんにはしんぎょう)	(知恵の完成についてのもっとも肝要なものを説ける經典。)

舍利子(シャーリーシー) ; 仏様のお弟子さんの名前。般若心経は、仏様がお弟子さんに向かって話した言葉をまとめたもの。その話を聞いているお弟子さんが、「舍利子」。

**【資料 2】 伝教大師直筆の『山家学生式』の冒頭部分 (延暦寺蔵、国宝)**

天台は華宗年私學生式一巻  
國寶何物實道心也。有道心人名為國寶。故  
古人言。任寸十枚。非是國寶。照于一隅。此  
則國寶。古指又云。能言不能行。國之師也。  
能行不能言。國之用也。能言能行。能言國之  
寶也。三品之內。唯不能言不能行。為國之  
賊。乃有道心。佛子。西稱菩薩。東號君子。思  
事向已。好事與他。忘已利他。慈悲之極。釋  
教之中。出家二類。一小乘類。二大乘類。道  
心佛子。即此類。斯令我東州。但有小像。未  
大類。大道未弘。大人難興。誠願 先帝  
御願。天台年私永為大類。為菩薩僧。然  
則。王夢。獲九位。列落覺。毋五寫。後三  
增。數斯心。斯願不忘。及海利。今利後。愿  
切。無窮。

年私度者二人 和在先帝新加久  
日法華宗傳法者  
凡法華宗。天台年私。自弘仁九年。承期于  
後。除以為大乘類。不除其藉名。賜加佛子  
号。授圓十善戒。乃菩薩。沙弥。其度。係請



宗祖伝教大師 最澄

**【資料 3】 天台宗の教え**

天台宗の教え

宗旨 天台宗  
總本山 滋賀県比叡山延暦寺  
相師 宗祖日本傳教大師寂澄上人  
立教樂 中国の天台智者大師がお寂遊後二八  
の故のうら哀言す。これに法華經を中心  
として天台宗をお開きになら。其の後傳  
教大師が中国に渡られ天台大師の整弁  
に傳い密教禪法戒法等を合せ伝えて  
延暦十五年一月二十六日日本の天台  
宗を開かれ念仏等の教がそれに加  
わって日本仏教の根源とならる。宗旨  
であります。

本尊 天台宗のお尊の一本尊は大日如來  
攝摩訶薩阿彌陀薩不勒祿  
地持攝觀音薩婆と色々あるが  
いすれも法華經によつて示された  
永遠の宇宙の本体としての日如  
迦佛と同一体であるからす。て縁  
に従つてこれらの仏菩薩を敬信  
いたします。

教義 この世のいろいろの差別のこのか  
らはすべて移りゆく仮りの相て  
あるが。それはそのまゝ仏の慈徳  
の光である。私どもは皆仏の子で  
あり尊い仏になれる仏性を言つて  
示している。ので人々が。おのずから。心  
に覺めて道を転じて。空を開くのが  
天台宗の教である。

經典 俗に翻經習ふ念仏とも称される如  
く法華經の持法文相(念のものの  
中に溢れる真実の相をひらめく心)  
の立場に立つて念の大乘經典を  
敬い説誦いたします。

この寺は 和天山法性寺です  
この本尊は 大日如來です

【資料 4】 「法性寺」案内・由来 の看板

和 田 山 法 性 寺

宗派 天台宗 総本山比叡山延暦寺

宗祖 伝教大師(最澄)

本尊 大日如来(行基菩薩作)

諸佛 大日如来(秘色)・阿彌陀如来・観音上人・元三慈恵大師・不動明王・聖徳太子・觀世音菩薩・薬師如来・地藏菩薩などが祀られています。

經典 「妙法蓮華經」を根本經典としています。

由来 法性寺は、平安時代中期の長和五(一〇二六)年に、比叡山第二十二世天台座主(天台宗で最高位) 運賢が、衆生救済の浄地として創建されたのが始まりとされています。

岡崎城主松平広忠公の時世には、法性寺域に支院六坊(定光坊・杉本坊・中ノ坊・密蔵坊・密祥坊・大圓坊)がありました。その一つ定光坊の住僧永玖は有徳であり、広忠公が深く帰依していました。

広忠公の命を受け、この永玖が先達となって、鳳来寺(新城市)の薬師如来に男子出生を祈願し、そこで誕生したのが徳川家康公です。その功を認められ、天文十三(一五四四)年三月に、法性寺六坊は岡崎城の東北鬼門にあたる甲山の地(岡崎市六供町)に移されました。現在の法性寺は、村人の願いによって残された大日堂と、岡崎空襲の前日に甲山寺から戻られた仁王像がお守りしています。像の背向に記された「法性寺六坊」の表記が昔の面影を残しています。

主な年中行事

- 一月 初詣・正月元日
- 二月 星まつり大護摩供・折袴「節分祭・ひまき」
- 三月 本尊大日如来法要・厄除け元三慈恵大師法要
- 七月 盂蘭盆施餓鬼・鬼・法要・地藏祭
- 十一月 のほり旗奉納祈願祭
- 十二月 報恩講・大晦日除夜の鐘

◎交通安全・諸願成就祈禱・先祖供養の回向法要・葬儀など受付けております。

悪事を己に向かえ、好事を他に与え、己を忘れて他を利するは、慈悲の極みなり。

(伝教大師「山家学生式」より)

【資料 5】 法性寺の由来

【資料 6】 法性寺本尊「大日如来」  
(行基菩薩作)  
…本堂 展示写真



法性寺の由来

碧海郡六ツ美村郷土事跡によると、本村に天台宗の寺あり、和天山法性寺と号し遂に村名となることあります。和天山法性寺は、比叡山延暦寺を総本山とする天台宗の寺で、かつては上屋敷地内を中心に七堂伽藍と二山六坊(定光坊・杉本坊・密祥坊・中之坊・密蔵坊・大圓坊)を備えた旧六ツ美地区唯一の大寺院でした。天文年間、松平清康の子広忠は世子がないことを憂慮し、法性寺定光坊永玖を先達として鳳来寺の薬師如来に世子出生を祈願したところ、忽ち靈験が現れ、誕生したのが徳川家康でした。松平広忠はおおいに永玖の功を賞し、天文十三年(一五四四年)三月、松平家の祈願所並びに岡崎城の東北鬼門鎮護として、戦勝を祈るため和天山法性寺の一山六坊を長輝山甲山寺に移しました。この時、村人の願いによって、寺域にあった行基菩薩御作の本尊秘仏「大日如来」を祭る大日堂は残されました。これが現在の堂宇です。その後、慶長八年(一六〇三年)三月に徳川家康は、甲山寺本堂を再建するに当たり、和天山法性寺の仁王像を甲山寺に移し、同年八月十八日、甲山寺に寺祿二五〇石、法性寺に十七石を与えました。また、甲山の地、東北から守護神として、岡崎の人々と城を見守った仁王像は、昭和二十年七月十九日、岡崎空襲の戦災を免れ、法性寺に戻ることができた不思議な力を持つ由緒ある仁王像であります。

## 【資料 7】 法性寺 本尊「金剛界大日如来像」について

像高33.2cmの智拳印（胸の前で、左手をこぶしに握って人差し指だけ立て、それを右手で握る印）を結び金剛界大日如来坐像で、寄木造・漆箔・玉眼嵌入（かんにゅう）の像。頭部前後矧（はぎ）、差首とし、体部も前後矧、膝横木一材内割をする。製作年代は室町時代末から江戸時代初期。破損もなく、五智の宝冠（五角形の各平面に五智五仏を配する宝冠。五智＝大日如来に備わる5種の智慧）をいただき、頭の頂に高い髻、条帛、裙をまとい豪華な装身具をつける。一見すると菩薩像のように見えるが、これが大日如来の特徴と言える。なお、大日像には金剛界と胎蔵界の大日如来があるが、市内では胎蔵界大日如来像はまだ見えていない。（岡崎神仏雑記帳より）

### 金剛界・胎蔵界 とは？

#### 大日如来とは「密教」の最高の位にいる仏様

○密教の教えでは、大日如来は宇宙そのものであり、また阿弥陀如来や薬師如来をはじめとする他の仏様もすべて、大日如来が変身した姿です。大日如来がいなければ、ほかの仏様も存在できません。

○大日如来は1人ではなく、2人いらっしゃるんです。1人は智慧を表す「金剛界（こんごうかい）」、もう1人は慈悲を表す「胎蔵界（たいぞうかい）」という世界にいます。「金剛」とはダイヤモンドのことで、大日如来の智慧はダイヤモンドのように絶対に傷つかないという意味。また「胎蔵」はすべてのものが大日如来の中で、生まれる前の赤ちゃんのようにやさしく包まれていることを意味しています。

○「金剛界」と「胎蔵界」にいらっしゃる大日如来も、それぞれ見た目に違いがあります。1番の違いは、印相（いんそう＝手の形）です。「金剛界」の大日如来は、簡単に言うと忍者のような手の形をしています。具体的には、胸の前で左手の人差し指を立て、その人差し指を右手で握る形をしています。これを智拳印（ちけんいん）と言い、「金剛界」の大日如来だけがする手の形で、仏様の智慧の深さを表しています。

○一方、「胎蔵界」の大日如来は、「法界定印（ほっかいじょういん）」という手の形をしています。具体的には、おなかの前で左の手のひらを右の手のひらの上にのせ、親指同士を軽くつけて楕円をつくる形をしています。これは慈悲の心を表しています。（「仏像リンク」より）

## 【資料 8】 金剛力士像 異聞



### 金剛力士像異聞

法性寺山門兩脇に立つ仁王像は、天文十三年（西暦一五四四年）、《法性寺六坊》といわれた一山が、岡崎城の鬼門に当る北東の鎮護の守神として、現在の甲山寺（六供町）に移された際、一緒に移されました。ところが、三百余年後の昭和二十年七月、太平洋戦争が激化、米軍による本土の空襲が連日連夜行われていた当時のこと。甲山寺の可児光照住職から「昨夜、夢に仁王さんが現れて、法性寺に帰りたくいと告げられたので至急頼む」と、現住職の祖父母に当る野田政次郎・糸津夫妻に連絡がありました。両人が大八車で、その日のうちにお迎えして法性寺に安置した、その当夜岡崎市は大空襲に会い、甲山寺は勿論旧市街は灰燼に帰してしまつたのでした。

この事実は、当時も評判になりましたが単なる偶然とは考えにくく、金剛杵（しよ）を手に仏法を守護する天神の金剛力士の霊験が現実を示されたもの、と信じられてきました。

「奇瑞」（きずい）（めでたいことの前ぶれとして起こる不思議な現象。吉兆）を身をもって示した尊い実話として、法性寺では言い伝えられています。

《法性寺金剛力士像仁王門落慶和讃》

先代住職 野田薫英 作

婦命頂礼仁王尊	世の荒波に逆らわず	長の年月侘び住まい
夢の御告げを蒙りて	再び迎ふ法性寺	大日如来の仁王門
建立なりていかめしい	御姿拝む仁王尊	現世利益のありがたき
大日如来の御靈験	末の世までもにをうなり	御恩御恩と鐘がなる
嗚呼ありがたや仁王尊	南無阿弥陀佛阿弥陀佛	南無阿弥陀佛阿弥陀佛

【資料 9】 法性寺町名考

**法性寺町名考**

碧海郡六ツ実村郷土事跡によると

「本村に天台宗の寺あり、和台山法性寺と号し遂に村名となる」とあります。

和台山法性寺は、比叡山延暦寺と総本山とする天台宗の寺で、かつては上屋敷地内を中心にして七堂伽藍と、一山六坊（定光坊、杉本坊、密詳坊、中元坊、密嚴坊、大圓坊）を備えた旧六ツ美地区唯一の大寺院でした。

天文年間、松平清康の子忠忠は世子がいないことを憂慮し、法性寺定光坊永政を先達とし、鳳来寺の葉師如来に世子出生を祈願したところ、勿も靈驗が現れ、誕生したのが徳川家康でした。

松平忠忠はおおいに永政の功を賞し、天文十三年（一五四四年）三月、松平家の祈願所並びに岡崎城の東北鬼門鎮護として戦勝を祈るため和台山法性寺の一山六坊を長禪山甲山寺に移しました。この時、寺域にあった行基菩薩御作の本尊必佛「大日如来」を祭る大日堂は残されました。これが現在の堂宇です。

その後、慶長八年（一六〇三年）三月に徳川家康は甲山寺本堂を再建するに当たり和台山法性寺の仁王像を甲山寺に移し、同年八月十八日甲山寺に寺禄二五〇石、法性寺に十七石を与えました。甲山（かぶとやま）の地、東北から岡崎城の守護神として人と城を見守った仁王様は、昭和二年七月十九日岡崎空襲の戦災を免れ法性寺に戻ることができた不思議な力を持つ由緒ある仁王像であります。

法性寺



【資料 10】 法性寺 主な年中行事

法性寺 主な年中行事	
2月	足まつり祈願「節分祭・豆まき」
3月	本尊大日如来法要
3月	厄除け元三大師法要
7月	施餓鬼会
11月	のぼり旗奉納祈願祭
12月	報恩講
12月	除夜の鐘

文通安全・諸祈願・諸供養・葬儀など  
受付けております。

【資料 11】 法性寺ねぎが有名になった理由

【住職のお話】

- 「法性寺ねぎ」の方が、お寺よりも有名ですね。実は、有名になった（した）のには、私も関わっているんです。
- 私は、市役所の農務課にいました。ある日新聞記者が来て、「いつも、ナス、イチゴでは面白くない。何かないかな。連載を書きたいんです。」と言ってきた。
- そこで、近藤さんのところに飛んで行って、お願いしたら、すぐ記者と一緒に会ってくれて話をしました。
- 記者は、法性寺ねぎの話を連載記事にした。普及所（農業改良普及所）も、売り出すのに協力してくれました。
- 補助金も出た。県も出した。
- 結局、生産が追い付かないような状態になったんです。
- 「比叡山延暦寺へ修業に行った法性寺の僧侶が、京都のねぎを持ち帰ったのが始まり」というのは、まあ、そういうストーリーになったんです。